

示ス該ハナル場合ノ外ハ單ニ船舶書類ノ欠紙ノ故ヲ以テ没収ヲ行  
 ノフ得ス但斯ノ如キ船舶ハ載貨ニモ嫌疑アルカ以テ他ノ嫌疑ヲ増  
 ハシキ事情アルトキハ捕獲處於所ノ認失ヲ以テ國際法上罰裁ヲ加  
 ハ得ハキ行爲ヲ行ヘリト認メ没収スルニ至ルニ至リ得ハキナリ  
 倫敦宣言ハ船舶書類ノ欠紙ノ場合ニ于テ規定スル所ナキナリ  
 船舶書類ノ毀棄又ハ隠匿又ハ文字ノ抹殺若シ人変更ノ場合殊ニ船檢  
 ニ際シテ行ヘル船舶書類ノ毀棄ノ場合ニ於テハ嫌疑重大ナリトス  
 載貨ノ如何ニ始ラス單ニ船舶書類ノ毀棄、隠匿又ハ文字ノ抹殺、  
 変更ノ理由ヲ以テ直ニ船舶ヲ拿捕シ得ハキナリ斯レ如キ船舶ハ單  
 ニ船舶書類ノ毀棄、隠匿ノ故ヲ以テ没収シ得タルモ他ニ嫌疑ヲ唱  
 スハキ事情アルトキハ捕獲處於所ノ認定ヲ以テ國際法上罰裁ヲ加  
 ハ得ヘキ行爲ヲ行ヘリト認メ没収スルニ至リ得ヘキナリ  
 倫敦宣言ハ船舶書類ノ毀棄、隠匿ノ場合ニ於テ規定スル所ナ  
 船舶ヲ没スル船舶カニ重ノ書類ヲ有シ又ハ隠匿ノ書類ヲ有スル場  
 合ニハ嫌疑重大ニシテ拿捕ヲ行ヒ得ハキナリ然レトモ拿捕以外ノ  
 船檢ニ于テハ船舶ノ種類一途ニ出テス或國ハ例ハ露國及西班  
 牙ノノ例ニ依レハ此事案ノミヲ以テ没収ヲ行ヒ得ハキナリ他ノ國  
 (例ハ英國及合衆國)ノノ例ニ依レハニ重書類又ハ隠匿ノ書類カ  
 拿捕ヲ行ナハル文職者ヲ没収スルニ存シタルニ至リ得ル場合ニ於テ  
 ノミ没収ヲ行ヘリ  
 我國捕獲規定(四四)ハ隠匿ノ方法ヲ用ヒ臨時禁制品ヲ搭載スル  
 船舶及其所有者ニ屬スル載貨ハ没収スルト爲ス倫敦宣言ハ此案  
 ニ于テ定ムル所ナシ

第ニ 拿捕

船舶ノ拿捕ハ國際法上又戰時ノ罰裁ヲ加ヘ得ハキ行爲ノ行ハレシ  
 ルニト明ナル場合ハ新ノ如キ行爲ノ行ハレシトモ重大ナル嫌疑ヲ  
 存シ又ハ自回港ニ於テ充分ノ検査ヲ行フ必要アル場合ニ於テ之ヲ  
 行ヒ得ハキナリ此ノ二ノ場合ニ於テ拿捕ノ罰目ニ於テ差異アルコ  
 三九一



トナク運入ノ嫌疑ノ場合ニ於テ捕獲審檢所ハ經令船舶又ハ載貨ヲ  
取収スル事由ヲ察見マケルモ捕獲審檢所ノ正當ナルコトヲ宣告シ得テ  
回捕獲規程ノ中立船舶ヲモ拿捕スヘキヲ定メタル場合ハ其第三十七  
条及第三十九条ニ依リテタリ

中立船舶ノ方及ハ敵船拿捕ノ場合ト異レコトナク拿捕者キ士官  
及下士率テ該船舶ニ派遣シテ之ヲ占領スルニ依リテ拿捕ハ成ユス  
ルヲ常トスルモ天候ノ不良其他ノ事故ノ為メ又テ行フコト不可能  
ナレ場合ニハ船舶ヲシテ其國領ヲ離シ捕獲ノ拿捕スル所ニ送ヒ進航  
セシムレテ得ハ公規程六七)

中立船舶ノ拿捕ノ結果ハ敵船ノ拿捕ノ結果ト異トス異レテ拿捕ノ  
目的ガ既ニ異レニヨリテ生スル所ナリ敵船ノ拿捕ハ一概ニ敵艦ヲ  
拘スル海上ノ財産ヲ押收シ殊ニ一般ノ敵船ニ海洋ノ使用ヲ禁スル  
為ニシテ行フモノナレトモ中立船舶ノ拿捕ハ交戰國ニ有害ナレ時  
別ノ行為ヲ所過シ且之ニ制裁ヲ加フルカ爲ニ行フ所ナリ此ノ制裁  
ハ普通船舶又ハ載貨ノ没収ニシテ捕獲審檢所ノ各場合ニ依リテ

ノ事情ヲ檢シテ取収告々ハキモナリ中立船舶ヲ拿捕サルコトキ  
ハ其結果トシテ船舶及船舶ノ人及貨物ハ拿捕者ノ取リ下ニ立  
ツニ至ルモ敵船ノ場合ト異ニシテ職員及船員ハ俘虜トナレシトナ  
シハ公規程五ノ節ニ項一ニ依リテ若ハ船舶又載貨ノ審檢ノ為ニ証人  
トシテ押留サルコトアルモ(公規程八条)此目的ノ為メ必要ナ  
ク敵人ニアウガル以上ハ直ニ没収スヘキモノトス  
拿捕シタル中立船舶ヲ審檢ニ付スル為メ捕獲審檢所ハ在港即チ審  
檢港ニ引致スルコトニ干シテハ敵船ノ場合トシテ同旨モ、此ノ異  
ニ關係シテ中立捕獲物ノ没収ニ干スル及述ノ制限ニ注意スルヲ要  
ス  
拿捕者ハ拿捕シタル中立船舶ヲ破壞シ得カレノ原則ハ一概ニ認メテ  
ルル所ナリ然レトモ敵船ノ場合ノ如ク此原則ニ對スル例外トシテ  
審檢港ニ引致セシテ海上ニ送テ没収ヲ行ヒ得ヘキ場合アルコト  
ヲ認ムヘキヲ否ヤニ干シテ在米派論アリシハ英國ノ慣例ハ如何ナ  
三九三



レ場合ニモ中立船ノ海上ノ被襲ヲ謀メスニテ故令諸條ニ引致ス  
ハ受取レ得ヘキコト疑フ然レハ場合ニ伴テモ其理由ノ如何ヲ同  
ハス海上ニ於テ中立船ヲ破壊セハ充分ノ賠償金を支払フヘキモノ  
ト為レリ是レ理由ノ如何ヲ問ハス審檢官ニ中立船ヲ引致スル條ハ  
ナルトキハ之ヲ解放人ヘレト為スモノナリ然レモ他國ノ艦隊ハ必  
ズレモ英艦ノ如ク敵船ト中立船トノ間ニ區別ヲ設ケ又日露戰爭ノ  
際我國ハ中立船ノ破壊ヲ行ハザリシモ德國海軍ヲ行ヘリ中立船ノ  
破壊ノ問題ハ第一平和會議及倫敦會議ニ於テ議論盛ナリレカ遂ニ  
倫敦宣言ニ於テ折衷的ノ解決ヲ為シ中立船ハ被襲シ得スレテ拿捕  
ノ有效ナルニトテ正当ニ於否スル卷ニ引致スルヲ要スレノ原則ナ  
リトシ此原則ヲ適用シ船舶ヲ引致セシトスルトキハ(イ)軍艦ノ  
命令ヲ受シ又ハ其現ニ從事スル作戦行動ノ成效ヲ害スル例外的必  
要ヲ存スル場合ニ於テ該船舶ヲ捕獲處檢所ニ引致セラルト決定セ  
ハ(ロ)政府又ラレヘキモノナルトキハ之ヲ破壊シ得ヘキナリ  
ルニ至レリ(四八、四九)而シテ捕獲處檢所ニ引致スト決定セハ

引致セラルヘキ船舶ニ破壊ヲ限レテ以テ中立船舶ノ破壊ハ此干  
渉ヨリニテ其敵船ト同様ノ取扱フ度クヘキ場合(倫敦宣言第四十  
六条ニ場ケクル軍事的補助ノ場合ヲモ含ム)以外ニ於テハ主トシ  
テ次ノ三ノ場合ニ於テ行ヒ得ヘキナリ(甲)中立船カ對機侵犯ヲ  
為レル場合(乙)中立船ノ孤艦ナル戰時禁制面カ其價格上、重要  
上、密積上又ハ運賃上金銀貨ノ半量以上ニ上ル場合(丙)中立船  
カ軍事的補助ニ從事スル場合是ナリ中立船カ受取レ得ナル場合ニ  
於テハ如何ナル事情ノ下ニ於テモ破壊ヲ行フ能ハスニテ、若シ審  
檢官ニ引致シ得タルトキハ之レヲ以テ航海ヲ被行セシムサルヘキ  
ラス  
中立船ヲ海上ニ於テ破壊シ得ル場合ニ於テモ破壊ヲ為スニ際シテ  
利害干係者ノ利益ヲ保護スル為メノ破壊ヲ行フ者ノ責任ニ關シテ現  
定スル所ナリ  
(丁)破壊ヲ為ス前ニ船以テ在ル人員ハセテ安全ノ地ニ移入ヘタ  
且利害干係者ニ於テ拿捕ノ有效ナルコトヲ檢定スルニ必要ナ  
三九五



三九八  
 持主ノ有ニ歸スト認ムハントスル學說アリトモ國際ノ慣例ハ一ニ  
 出テ又英國ノ慣例ニ依レハ中立國獲物ノ再奪權有ハ其派基ニ引致  
 カルルトキニ没収ナルハキ場合ニハ政府諸金ヲ没タルノ権利アリ  
 トス蓋然當ヲ得タルモノナリ  
 奪權ナレタル船舶ハ文獻國基ニ引致スレフ得タル爲メ放棄セラル  
 ハキ場合ノ外ニ於テ押獲審檢所ノ審檢ヲ度アスレテ解放セラルハ  
 キ場合ニ存ス一以奪權ヲ行ハルモ審檢前ニ據據解ケタルトキハ直  
 ニ解放スハキナリ  
 論說宣言ハ押獲審檢所ニ於テ船舶又ハ貨物ノ奪權ヲ無効ナリト檢  
 定ニタル場合又ハ審檢一付セスレテ奪權セル物件ヲ解放シタル場  
 合ニ於テハ利害干係者ハ其船舶又ハ貨物ヲ奪權スルニ充テル理  
 由ナキトキニ限リ、損害賠償ヲ度ケルノ権利ヲ有スト爲セリハニ  
 四一

第九章 奪權セラレタル中立船舶ノ  
 審檢

第一 押獲審檢所

國際法上文戰國ハ一定ノ事情ノ下ニ中立船舶ヲ奪權スルノ権利ヲ  
 有シ又其事、船舶ヲ押獲審檢所、檢定ニ付スルノ義務ヲ有ス然レ  
 トモ押獲審檢所ハ現今ニ於テハ文戰國ノ官法ニシテ奪權セル中立  
 船舶ノ審檢其モノハ固以の事項ニ屬シ國際的事項ニ屬セス船舶ノ  
 爲メル中立國ハ審檢所ニ於テ代表ナルルコトヲ少クトモ直接審  
 檢ニ干係スルニトシ又押獲審檢所ノ適用スル所ハ許多ノ學者力  
 國際法規其モノナリト爲クニ實ハ國際法規ニアラスレテ國際法ニ  
 遵由シテ定メラルハキ或文法助又ハ不文法約ノ國內法規ナリトス  
 (同說)ホルラント、ルエストレーキ、シエームス、アラウヤ、又  
 コット、オッペンハイム)審檢所、其ノ國際法ニ依ル檢定ハ國際  
 法上一定ナル所ニ及、ル審檢上ノ結果ヲ生スレ場合ニ於テハ押獲



三九六  
リト認ムレ一切ノ船舶者共及其他ノ者共ハ總テ之ヲ軍艦ニ載  
載スヘシハ倫叙旨言ユ

(2) 中立船ヲ破壊シタル時ハ拿捕ノ有效ナルコトニ于テ一切  
ノ決定アル以前ニ於テ比ソ破壊ヲ正當トスヘシ例外的ノ必要  
アリタルカ為メ此手段ヲ執リタルニ外ナラザレバ正當上無明  
スレヲ要ス

拿捕者ニシテ右弁明ヲ為ササレトヤハ被拿捕者ハ拿捕ノ有效  
ナリメスハ無效ナリメノ濤同ヲ為スニ及ハスニテ其利害干渉  
人ニ對シ賠償スルノ義務ヲ有ス(五二)

(3) 中立船ノ破壊ハ正當ナリト弁明セラレタル場合ニ於テモ後  
ニ至リ被船ノ拿捕ハ無效ナリト決定セラレタルトキハ拿捕者  
ハ其返還ヲ受クルノ権利ヲ有スレ利害干渉者ニ對シテ返還ノ  
代トシテ賠償ヲ奉フルヲ要ス(五三)

(4) 改收スルヲ得タル中立貨物ニシテ船舶ト共ニ破壊セラレタ  
ルトキハ該貨物ノ荷主ハ賠償ヲ度タルノ権利ヲ有ス(五三)

船舶ヲ改收スヘキラサルトキニ於テ改收セラレヘキ船舶ノ正當ニ  
破壊スルヲ得ル場合ト云ハシテ情況アル場合ハ即チ船舶ヲ引致スル  
トキハ便益ノ安全ヲ害シメハ其現ニ從事スル作戦行動ノ必要ヲ告  
スル場合)ニ於テハ該船々以ニ在レハ稱慶審檢所ニ引致スト改收  
セム)改收スヘキ貨物ノ引渡ヲ要シメ又ハ之ヲ破壊スルノ手段ヲ  
執ルヲ得レトト倫叙旨言ノ認ムル所トナレリ而シテ此場合ニ於テ  
中立船舶ノ破壊ヲ行ヘル者ノ責任ニ于スル上述ノ(一)及(二)及(三)  
ノ規定ヲ適用スヘシトスヘキ也(四)

拿捕者レタル中立船ノ領護ニ于シテハ該船ノ領護ノ場合ニ同シ捕  
獲審檢所ノ決定前貨物ヲ取フコトヲ拿捕者ニ對シテ拿捕者レタル  
船舶ノ証状ヲ得ルコトナレバ此等ノ頭起リシカ今ハニ於テハ多數ノ  
國ノ國內法ハ之ヲ認メス但國際法上ニ於テハ國家カ其國內法上ニ  
ヲ認ムルコトヲ禁スルニアラス  
中立性ノ捕獲効力初ノ拿捕者ノ敵ニ依リ再ヒ拿捕セラレタル場合ニ  
於テ被擄貨物ヲ取ルナルニ當然再拿捕ニ依リ船舶カ自由トナリ原



持主ノ有ニ歸スト認ムハレトスル學說アリトモ國際ノ慣例ハ一ニ  
 出テス英國ノ慣例ニ依レハ中立國領物ノ再拿捕有ハ其敵艦ニ引致  
 カルルトキニ没収ナルハナキ場合ニハ敵艦艦金ヲ没スルノ権利アリ  
 トス蓋然當リ得タルモノナリ  
 拿捕ナレタル船舶ハ文獻國艦ニ引致スルヲ得カレ爲メ放棄セラル  
 ハキ場合ノ外ニ於テ押獲審檢所ノ審檢ヲ度アスレテ解放セラルハ  
 ナキ場合ニ存ス一旦拿捕ノ行ハレモ審檢前ニ嫌疑解ケタルトキハ直  
 ニ解放スヘキナリ  
 倫敦宣言ハ押獲審檢所ニ於テ船舶又ハ貨物ノ拿捕ヲ無効ナリト檢  
 定シタル場合又ハ審檢一付セズレテ拿捕セル物件ヲ解放シタル場  
 合ニ於テハ利害干係者ハ其船舶又ハ貨物ヲ拿捕スルニ充テル理  
 由ナキトキニ限り、損害賠償ヲ度タルノ権利ヲ有スト爲セリハニ  
 四一

第九章 拿捕セラレタル中立船舶ノ  
 審檢

第一 押獲審檢所

國際法上支那國ハ一定ノ事情ノ下ニ中立船舶ヲ拿捕スルノ権利ヲ  
 有シ又英等ノ船舶ヲ押獲審檢所ニ檢定ニ付スルノ義務ヲ有ス然レ  
 ども押獲審檢所ハ現今ニ於テハ支那國ノ官艦ニシテ拿捕セル中立  
 船舶ノ審檢其ノハ國領内ノ事項ニ屬シ國際法上ノ事項ニ屬セズ船舶  
 爲スル中立國ハ審檢所ニ於テ代表ナルコトナク少クモ直接審  
 檢ニ干係スルニトシテ又押獲審檢所ノ適用スル所ハ許多ノ學說  
 國際法規其ノアリト爲クニ實ハ國際法規ニアラスレテ國際法ニ  
 違ヒテ定メラルヘキ或文法約又ハ不文法約ノ國內法規ナリトス  
 一國既ハルラント、ルニストレキ、シエームス、アラケン、ス  
 コット、オツバンハイム)審檢所ノ其ノ國內法ニ依ル檢定カ國際  
 法上一定ナル所ニ及、ル否實上ノ結果ヲ生スレ場合ニ於テハ押獲  
 三九九



審檢所々屈回ノ國際法違反ノ事實ヲ生シ中立國トノ紛議ヲ免レリ  
ルヲ以テ立法者ハ國際法ノ規定ニ反スル法令ヲ作ラス又一概的ニ  
捕獲審檢所ノ國際法ニ適スル國收ノ不文の法規ノ存在ヲ推定シテ  
檢定ヲ為スラ命令ニ若ハ默認スヘク捕獲審檢所ニ國收去ノ天討ノ  
明文ノル等已ムヲ得タル場合ニアラハレハ國際法違反ノ結果ヲ生  
スヘキ檢定ノ為スヲ避クヘキナリ然レトモ國際法上一定マカレ馬  
多クシテ英ヲ許マン莫ニ於テ各交戰國ノ捕獲審檢所ノ檢定ニ於テ  
採リタル上級區々ニ涉レリ一例ハ戰時禁制品ノ品目、取扱及破ノ  
行為ノ現行ノ終始、船舶及個人ノ敵性一又一國ノ英蘇檢所ニ國際  
法ノ規則ニ違由スルヲ命令ニ於テモ英ハ蘇檢所カ直ニ國際  
法ヲ適用スルモノニアラスニテ各事項ニ付テ同文の明文ヲ設ケス  
シテ國際法ノ規定ニ事實上適合スルハ國收不文の規定ノ存在ヲ  
推定スルノ命令ニ外ナラザレリ改ニ此場合ニ於テモ國家ノ  
指定ノ事項ニ付テ國際法ノ規定ニ事實上適合カレモ命令ヲ與ムル  
トモハ捕獲審檢所ハ之ヲ適用セサルヘカヲカサレナリ

交戰國ノ審檢所ノ中立國ノ利益ヲ保護スルニ受ラカレテ見テ最近  
ニ於テ捕獲ニ付テ中立國ヨリ出ワル裁判官ヲ各人國際的組織ノ  
審檢所ヲ設ケントスルノ設法ナルニ至レリ十八世紀ノ中葉ニ於テ  
キエーデンノ既ニ交戰國ノ裁判官ト拿捕サレタル中立船ノ本國ノ  
領事又ハ委員ヨリ出ル捕獲審檢所ヲ設ケルノ設法爲シ一八七五年  
ニハ國際法協會カ此點ノ研究ヲ爲スヲ決シウエストレーキ案及ヒ  
ブルノリンク案ヲ見ルニ至レリウエストレーキ案ハ領事捕獲事件  
ニ付係タル交戰國ニ付係セル中立國及ヒニ付係セラル中立國ノ  
各ヨリ一人宛ノ裁判官ヲ出シ三人ヲ以テ高率捕獲審檢所ヲ組織マ  
シメ交戰國捕獲審檢所ノ檢定ニ付スル扣訴ヲ裁判シコメントムハ  
ブルノリンク案ハ英ヲ捕獲ノ審檢ニ付テ國際的組織ノ審檢所ヲ  
設ケ檢定ヲ爲カレメ戰時始及扣訴ノ二審檢所ヲ作り又ニ双方ノ  
交戰國ヨリ一人及認テノ中立國中ヨリ一名ヲ出シ三名ヲ以テ組  
織ムヘントス同命令ハ其一八八七年ノ決議ニ於テ各交戰國カ五人  
ノ裁判官ヨリ出ル扣訴審檢所ヲ作り其所長及決定官ノ一人ハ交戰



四〇二  
國之ヲ任命シ他ノ三人ハ三ノ中立國カ之ヲ指カスヘシトス第二回  
平和會議ニ於テ主トシテ第一審ヲ檢定スル爲メノ國際捕獲審檢所  
ヲ設立スルノ條約案成レリ此ノ案ニ依レハ國際捕獲審檢所ハ永久  
的ニ組織ヲ有シ締結國カ各六ヶ年ヲ任期トスル裁判官及予所裁  
判官ハ各一人ノヲ任命シ而シテ許多ノ裁判官及予所裁判官ノ中ヨ  
リ執事裁判官十五名ヲ定ムルコトトシ其九名ヲ以テ所定ニ必要ナ  
ル裁判官ト爲ス而シテ締結國中、我國、他國、他國、合衆國、澳大  
利亞、佛國、英國、伊國、又ハ他國ヨリ任命シタル裁判官ハ常  
ニ其職務ニ就クコトトシ其他ノ國ヨリ任命シタル裁判官ハ條約案  
ニ附屬セル表ニ定ムル所ニ依リ輪番ニ執務スルコトトス而シテ文  
民國ハ輪番ニ拘ラス其在任ナル裁判官ヨリシテ戰爭ヨリ止ムル一  
切ノ事件ノ審檢ニ加ハラシムルコトヲ請ハスルヲ得ルコトトス然レトモ  
上述ノ組織ニ于テ許多ノ國ノ不調アリ又捕獲ニ于スル國際法規  
カ未ダ一定セサルヲ以テ實際ニ決テ許多ノ事變ニ于テ國際法ノ  
規則ヲ決定スルノ權限ヲ國際捕獲審檢所、裁判官ニ一任スルコトトナ

ルハク是レ各國ノ利害ヨリ見テ極メテ危險ナリトスル思慮アリタ  
リ然レニ主要ナル海國ノ代表者ヨリ成ル倫義會議法規會議ハ捕獲  
ニ于スル國際法ノ規則ヲ予メ一定シ以テ國際捕獲審檢所ノ設立ニ  
對スル故障ノ一ヲ除去スルノ趣意ヲ以テ開カレ此會議ノ結果トシ  
テ倫敦宣言成レリ若シ亦ニ平和會議ニ於テ議定セル國際捕獲審檢  
所設立ニ于スル條約審檢所カ諸國ノ批准ヲ得テ實施サレルニ至ラハ國  
際捕獲審檢所ハ支戰國ノ捕獲審檢所ノ檢定ニ對スル扣訴ヲ審檢ス  
ルキヲ以テ支戰國ノ捕獲審檢所モ實際ニ於テ國際捕獲審檢所ノ認  
メヲ以テ國際法ノ規定ト爲ス所ニ順從スル檢定ヲ下ササルヲ得サ  
ルニ至ルヘキナリ合衆國ハ其最高裁判所ノ判決ニ對スル扣訴ヲ認  
ムルヲ得サルノ理由ニ依リ提議スル所アリテ一九一〇年追加議定  
書調印セラレ憲法上ノ性質ノ困難ニ由リ國際捕獲審檢所設立ニ于  
スル條約ヲ其原來ノ規定ノ條承認シ得ル國ハ其批准又ハ加盟ノ  
際其國以捕獲審檢所ノ管轄スル捕獲事件ニ付テ國際捕獲審檢所  
訴ハルハ拿捕ニ因リ生シタル損害ノ賠償ヲ求ムル訴訟ノ形式ニ於



テノミ爲ニ得ヘキコトヲ宣言スルノ権利ヲ有スト 爲ニソリ此結果  
トシテ此ノ如キ宣言ヲ爲セレトモ 捕獲事件ニ干シテハ 國際捕獲者  
檢所ハ当該捕獲事件ノ相成又ハ無效ヲ利大ニス又文戰國ノ捕獲者  
檢所ノ決定ヲ確認シ又ハ破毀スレトモ 爲ナス單ニ拿捕力國際法  
上不法ナリトモハ原告ニ許ナスヘキ損害賠償額ヲ定ムヘキコトト  
ナレトモ理論上ニ於テ文戰國捕獲者檢所ノ其國法律ノ規則ト認ム  
ル所ニ依リ破毀スレヲ認ムル如キハ不可ナリ且實際上ニ於テ一國  
ノ捕獲者檢所カ其國內法ニ依リ決定セル所ヲ國際捕獲者檢所ナル  
英國ノ裁キタラサレ國際捕獲者檢所ノ規則ト認ムル所ニ依リ破毀スレヲ認ムルハ國內法於所及國內法制ノ威威ヲ保リ  
所以ニアラザルナリ余ハ國際捕獲者檢所ノ設立ニ干スル條約ハ各  
家國ノ是議ニ依リ例外的ニ認メラルニ至レル所ヲ原則トシテ認  
メナリニテ措クニモナリ

第二 齋檢ノ結果

拿捕マラレタル中立船ノ審檢ノ結果ハ (イ) 或ハ船舶戰貨ヲ只ニ  
没収シ (ロ) 或ハ船舶ノミヲ没収シ (ハ) 或ハ戰貨ノミヲ没収シ  
(ニ) 或ハ船舶戰貨ヲ解放スルモ賠償ヲ与ヘス (ホ) 或ハ賠償ヲ  
与ヘテ船舶戰貨ヲ解放スルニ至ル  
倫敦宣言ハ捕獲者檢所ニ於テ船舶又ハ貨物ノ拿捕ヲ無効ナリト檢  
定シメレ場合ニ於テハ利益ヲ保者ハ其船舶又ハ貨物ヲ拿捕スルニ  
充分ナル理由ナキトキニ限り損害賠償ヲ受クルノ権利ヲ有スト爲  
ス (六四) 例ハ船舶書類ノ毀棄ノ故ヲ以テ重大ノ嫌疑アリトシテ  
拿捕セルトキニハ審檢ノ結果拿捕ヲ維持シ拿捕セル物件ヲ捕獲物  
トシテ没収スヘキ事均ヲ察見セサルモ拿捕ヲ爲スノ充分ナル理由  
アルヲ以テ拿捕者ハ賠償ヲ爲スヲ要セス  
講和條約締結以前ニ拿捕サレタル中立船カ締結以後審檢ニ得ヘキ  
ヤ否ヤニ干シテ議論アリ然レトモ 齋檢ヲ爲リサレハ拿捕ノ正当ナ  
リヤ否ヤヲ末スル能ハス是ヨリ及令講和条約締結後ハ中立船ノ没  
収ノ決定ヲ爲シ得ストヌルモ拿捕ノ正不正ヲ定メ得テ中立船ニ与  
四〇五



ソハキヤ否ヤヲ定ムル為ニ審檢ヲ行フノ必要アルナリ平和克復後  
 檢定ニ依リ船舶戰債ヲ取收シ得ハキヤ否ヤニ期ニテハ理論上ニ於  
 テハ消強説カ有力ナリトス然レトモ反行説アリ  
 捕獲船檢所ノ審檢ノ結果トシテ船舶又ハ戰債カ取收セラレタルト  
 干ハ拿捕者ト拿捕サレタル船舶及債額ノ持主トノ干係ハ終了スル  
 ミ未タ國際捕獲審檢所成ラサル以上ハ拿捕サレタル船舶ノ所屬國  
 又ハ拿捕サレタル債額ノ持主ノ所屬國ハ其所屬ノ臣民ノ船舶ノ保  
 護ヲ為ス權利ニ基キ文成國捕獲審檢所ノ檢定ノ國際法ノ規則ニ合  
 セス又ハ形式上若ハ實際上明白ニ不正ナルトキニ於テ外交裁判ニ  
 依リ抗議ヲ為シ且請取ヲ為スコトアルヘキナリ此場合ニ於テハ純  
 粹ナル國際法上ノ問題トナルナリ

第十章 中立財産

第一 中立財産ニ干スル概説

中立財産ニシテ特ニ說明ヲ要スルハ交戰國ノ領土ノ領海又ハ公海  
 ニ在ルモノニ限ル  
 中立性ヲ有スル財産ナルハ敵性ヲ有スル財産ナルカヲ定ムル標準  
 ニ付キ海上財産ニ干シテ在米英米主權ト大陸主權トノ同ニ差異アリ  
 リタリ我國ハ概シ英米主權ニ依レリ命發宣言ハ船舶ノ中立性又ハ  
 敵性ハ原則トシテ其場所ノ權利ヲ有スル國如何ニ依リ定ムルト  
 シハ五七一箇條ノ中立性又ハ敵性ハ其持主ノ中立性ヲ有スルカ敵  
 性ヲ有スルカニ依リテ定ムルト為セルモハ五八ノ持主ノ中立性又  
 ハ敵性ヲ定ムル標準ニ付キ國籍ヲ重ニスル大陸主權ト在所ヲ重ニ  
 スル英米主權トノ同ノ折衷ヲ取ムルニ成致セザリシヨリ海上捕獲  
 ニ干シテハ人ノ中立性又ハ敵性ヲ定ムル標準ニ干スル規定ヲ依リ  
 ニ至リ従テ債額ノ中立性又ハ敵性ヲ定ムル標準ニ干スル規定ヲ依リ  
 五八ノ其ノ以爲難定マサルニ至リハ第一編第一章四章分條  
 海上財産ノ中立性ヲ相スルモ否マテ定ムル標準ニ干シテ諸國ノ同  
 ニ一致ヲ得サル莫アルコト上述ノ如キモ各國其國民法ニ於テ各其標  
 四〇七



準ヲ定ム我國ハ概シ英米主義ニ依リ規定ヲ設ケタリハ我國捕獲規  
程三乃至一〇)

海上ニ在ル財產ハ交戦國領海ニ於テハ公海ニ於テ交戦國軍艦ニ  
依リ拿捕サレ捕獲審檢ノ結果及收ナルコトアリ中立船舶及中立  
船中ノ中立貨ニ戰時禁制品輸送、封鎖突破、敵對幫助等ノ為メ拿  
捕サレ没収サレルコトアリ中立船舶中ノ敵貨、今日ニ於テハ戰時  
禁制品ノ性質ヲ有セサルトモ拿捕シ得ス(巴里宣言第三則)敵  
國船舶中ノ中立貨ニ亦戰時禁制品ノ性質ヲ有セサルトモ没収ヲ  
免ル(巴里宣言第三則)

一方ノ交戦國ノ領土ハ在ル中立財產ハ他方ノ交戦國カ之ニ戰爭  
ノ結果ヲ及ホシ許多ノ兵ニ於テ敵國私領財產ト同一ノ待遇ヲ受  
得ヘキ所ナリ例ハ占領地ニ在ル中立財產ハ其ノ庫藏品タルトモハ  
平和克復ニ至リ還付シ且賠償ヲ決定スヘキ條件ヲ以テ押収シ(海  
牙ノ陸戰ニ于スル條約五三)又占領地ニ在ル中立財產ハ徵收ヘキ  
條約五二)又ハ取立金(公田力五五)ノ目的物ト爲マテ得ル

レトモ中立人(即チ海牙ノ陸戰ノ中立ニ于スル條約第十六條ノ規  
定ニ依リハ戰爭ニ年カラサル國ノ國民)ハ其交戦國領ニ在リ  
財產ニ于シテ他方交戦國ノ戰爭管理違反ノ行為ノ結果ニ於テ  
本國ノ保護ヲ求ムルヲ得ヘキナリ

第二 非常徵用權

中世ノ頃ヨリ交戦國カ其港灣ニ在ル中立國ノ船舶ヲ強要シテ予メ  
一定ノ資金ヲ取ヒテ軍事上ノ輸送ニ從事セシメタルコト屢々アリ  
是レ非常徵用權 *jus angustiarum* ノ名ヲ以テ呼ハレタル所ナリモ  
十七世紀頃ヨリ諸國ハ茶商ニ依リ相互的ニ此意義ニ於ケル非常徵  
用權ヲ行ハルヲ約スルニ至リ今日ニ於テハ此意義ニ於ケル非常  
徵用權ハ既ニ不使用ノ慣習ニ依リ消滅セルモノト認ムルヲ得ヘキ  
ナリ

現時ニ於テ所謂非常徵用權ハ交戦國カ戰爭ニ於テ攻撃防禦ノ目的  
ノ為メ極メテ必要ナル場合ニ自己ノ領土又ハ敵國ノ領土ニ一時



ニ存在スル中立財産ヲ使用シ又ハ破壊スル天賦國ノ權利ヲ指スナ  
リ中立財産ニシテ軍用上ノ目的ノ必要ノ爲ニ使用シ得ルモノハ非  
常使用ノ目的物ト爲リ得ヘキナリ此ノ權利ノ行使ノ条件ハ敵ノ  
私有財産又ハ破壊ノ場合ニ同シ但中立人タル所有者ハ常ニ充分ノ  
補償ヲ受ケサルヘカラス

中立人ハ補償ヲ受ケルコトニ付キ不問ノ保護ヲ仰キ外交裁判ヲ行  
フコトヲ要スル得ヘキナリ

昔ハ戦争ノ際一ハ七一年独逸人ハテエクレードニ於テセーン河ニ  
浮ヘル英國ノ石炭船ニ隻ヲ拿捕シル回地艦ノ行ヲ阻ルヲ妨クル爲  
メ之ヲ沈メタリ英國政府ハ談判ヲ爲シ船ニ政府ハ補償ノ義務ヲ否  
認セルモ實際ニ於テ補償ヲ与ヘタリ

常ニ平和會議ノ陸戰ノ場合ニ於ケル中立ニ于スル條約中ニ於テ中  
立國ノ領土ヨリ来リタル鐵道材料ニシテ該中立國又ハ私立会社若  
ハ個人ニ屬シ又ハ屬スト認ムヘキモノハ必要ニ付得ケル場合及  
程度ニ於テスルノ外交戰者ニ於テ之ヲ鐵道使用スルコトヲ得スト

又是レ向來ニ必要ニ付得ケル場合及程度ニ於テ非常使用ヲ認  
メタルナリ而シテ材料ハ成ルヘク速ニ该国ニ返還スヘク又賠償ヲ  
爲スヘキナリ(一九第一項及第三項)

戰時國際法(完結)



大正十二年七月廿五日印刷 (非賣品)  
大正十二年七月廿八日發行

東京市本郷区本郷六丁目二番地

編輯兼  
發行所 石田正七

東京市本郷区(帝大赤門前)

印刷所 文信社  
電話番三二四七番

411  
412  
—  
863



14  
708



終

